

RISO REPORT 2010

RISO

平成22年3月期

報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに平成22年3月期報告書をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当期の売上高は、一昨年の金融市場の混乱に端を発した世界同時不況や円高の影響も受け、2期連続の減収となりました。インクジェット事業においては、高速カラープリンターの新製品の拡販が本格化し堅調に推移しましたが、孔版事業は先進国を中心に売上が減少しました。

利益面では売上原価の低減や販売管理費の削減に取り組んだ結果、2期ぶりに営業利益、経常利益を計上することができました。しかしながら厚生年金基金の脱退に伴う特別掛金を特別損失に計上したことと繰延税金資産を取り崩したことなどにより、最終利益は59億円の当期純損失となりました。

このような中、当社グループは新たな中期経営計画「Riso Vision 13」(P2参照)を策定し、安定した利益体質を再構築するためにさまざまな活動に取り組んでまいります。

当期の配当金につきましては、前期と同額の1株当たり30円とさせていただきます。

今後とも株主の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成22年6月

代表取締役社長
羽山 明

第四次中期経営計画 Riso Vision 13

(平成22年4月1日～平成25年3月31日)

新規顧客の獲得による健全な成長を、経営資源の効果的な活用のもとに実現し、安定した利益体質を再構築する

数値目標

- 連結売上高：830億円
- 連結営業利益：25億円

重点項目

1. インクジェット事業における販路の開拓と育成・強化
2. グローバルな商品企画体制・販売企画体制の構築
3. 生産体制・販管費構造のダイナミックな見直し

平成23年3月期経営方針

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収益力強化に向けて、インクジェット事業における本体の新規設置加速と孔版事業の効率的運営を進め、同時に体質強化のための社内体制整備を実行する

重点項目

1. インクジェット事業における販路の開拓と育成・強化
2. 市場に適合する商品開発のための社内体制整備

新規顧客の獲得による健全な成長を実現し、安定した利益体質の再構築を目指します。

第三次中期経営計画「Riso Vision 10」が平成22年3月期で終わり、今期から第四次中期経営計画「Riso Vision 13」がスタートしました。前中期経営計画の振り返りや今後の方針などについて社長の羽山明がご説明いたします。



代表取締役社長 羽山明

2期ぶりに営業利益が黒字に転換

第三次中期経営計画「Riso Vision 10」の最終年度である平成22年3月期は、売上高が前年比53億円減の784億円となったものの、営業利益は2期ぶりに黒字に転換し、前年比25億円増の16億円となりました。

当期の最終利益は59億円の純損失となりましたが、これは主に総合設立型の厚生年金基金「東京文具工業厚生年金基金」から平成21年9月に脱退し、特別掛金として58億円の特別損失を計上したことによるものです。厚生年金基金からの脱退は、将来にわたる特別掛金の負担増の可能性を回避するものであり、長期的な観点から判断いたしました。

また、米国子会社の収益構造を改善するため、事業再構築費用として4億円を特別損失に計上しています。今後成長が見込まれるインクジェット事業の民需開拓に注力できる体制を構築しました。

Xシリーズの販売が伸長

インクジェット事業については、5年ぶりにフルモデルチェンジした「ORPHIS Xシリーズ」の販売が本格化したことにより、前年比8.8%増(為替の影響を差引いた試算では同12.5%増)と成長し、売上高構成比でも28%を占めるまでになりました。昨年7月からは、同シリーズの海外向けブランド「ComColor (コムカラー) シリーズ」を米国で発売し、本年4月からは欧州での販売も開始しました。

一方、孔版事業は残念ながら売上減少傾向が続いており、当期は前年比11.3%減(為替の影響を差引いた試算では同8.5%減)となりました。一昨年の金融市場



世界最速のカラープリンター
「ORPHIS X9050」

の混乱を端緒とする世界的な景気低迷も売上減少に大きな影響を及ぼしています。

孔版印刷機の持つ高速・低コストで大量印刷ができるというメリットの優位性は失われたわけではなく、マーケット開拓の余地は十分にあると考えています。それらを掘り起こしていくため、高付加価値商品の投入や新たなマーケット開拓を続けてまいります。本年1月には業界初のA3判自動両面/同時2色印刷が可能なデジタル印刷機「RISOGRAPH MD6650W」を開発し、市場に投入しました。

3つの重点施策を実行し 安定した利益体質の構築を

今回策定した第四次中期経営計画「Riso Vision 13」は、新規顧客の獲得による健全な成長を効果的な経営資源の活用により実現し、安定した利益体質の再構築を目指すことを基本方針としています。

そのための重点項目として、「インクジェット事業における販路の開拓と育成・強化」「グローバルな商品企画体制・販売企画体制の構築」「生産体制・販管費構造のダイナミックな見直し」の3つのテーマを掲げています。

インクジェット事業における販路の開拓と育成・強化

高速カラープリンター「ORPHIS Xシリーズ」の海外向けブランド「ComColor (コムカラー) シリーズ」の全

世界的な展開により、広範な新規顧客を獲得し、より安定した収益基盤の構築を目指していきます。オルフィスの特長であるハイスピードと低ランニングコストは、世界的にみても当社のみが持つ大きな強みであり、グローバルでの成長が期待できます。

販売面では、新製品の展開を軸に新規販路の開拓と育成を図るとともに、ターゲットを絞り込んだマーケティング戦略を展開します。同時に、グループ内で市場情報や販売情報を共有し、的確な販促支援を通じて販売力の増強を図っていきます。

グローバルな商品企画体制・販売企画体制の構築

市場ニーズを迅速かつ的確に把握し、商品企画につなげるプロセスを整備することによって、開発期間の短縮を目指します。また、地域戦略と販路政策の見直しを通じ、需要の旺盛な地域の既存顧客に対して的確なサービスを提供しつつ、重点商品の拡販に努め、販売効率を高めていきます。

生産体制・販管費構造のダイナミックな見直し

為替の影響に負けない収益力を強化するために、さらなる原価低減を目指して生産体制を再構築していきます。業績向上の重点施策や海外子会社の業績改善、新商品開発など、企業価値向上のための施策には集中的に販売管理費を投入していきますが、その他についてはダイナミックに見直し、グループ全体で徹底的な削減を図っていきます。

安定配当の継続に努める

株主の皆様に対する利益還元につきましては、企業体質を強化しつつ、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としています。この方針に基づき、当社は期末配当による年1回の剰余金の配当を行い、安定配当の継続に努めています。

また、自己株式の取得も利益還元のひとつと考えておりますが、当期は株価水準や市場の動向などを勘案し、自己株式の取得は見送りしました。

なお、当期は厚生年金基金脱退時特別掛金を特別損失に計上したことや繰延税金資産を取り崩したことなどで大幅な当期純損失を計上しましたが、主力事業である印刷機器関連事業が復調傾向にあり、2期ぶりに営業利益を計上することができました。このため期末配当は、前期と同額の1株につき30円とさせていただきます。株主の皆様には、今後とも温かいご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

RISO TOPICS

業界初、A3自動両面プリントができる『RISOGRAPH MD6650W』発売

当社は、業界初、A3サイズの自動両面プリントができる高速デジタル印刷機『RISOGRAPH MD6650W』を本年1月より販売を開始しました。

同機は、本体内に2本の印刷ドラムを装備しています。1本目のドラムで表面をプリントした後、専用架台内で用紙を反転させ、2本目のドラムで裏面をプリントします。プリントスピードは、A3両面で毎分最高100枚(200ページ)です。2本のドラムの色を変えれば、表裏別色でのプリントや片面同時2色プリント(用紙反転なし)もできます。両面プリントの作業時間短縮や面付け機能による用紙の節約ができ、さらに訴求力のある2色プリントにも効果を発揮する新鋭デジタル印刷機です。

なお、同機の発売に合わせて、高速2色デジタル印刷機

「リソグラフMZシリーズ」のラインアップを一新し、USBメモリからのダイレクト出力に対応した『MD6650』『MD5650』(各A3サイズ対応)、『MD5450』(B4サイズ対応)の3機種を発売しました。



両面と2色を1台で実現
『RISOGRAPH MD6650W』

リソグラフ発売30周年を記念した自社展示会を全国開催



東京・秋葉原の富士ソフトアキバプラザで
開催した展示会の様子(平成22年1月)

会場以上で開催しました。各地会場では、「リソグラフ」

当社は、平成22年1月～2月にかけて自社による展示会「RISO Printing Evolutions Fair 2010～リソグラフ発売30周年記念 感謝をこめて～」を全国70

や「オルフィス」をはじめオフィスのプリントワークを効率化する周辺機器などを一堂に展示し、様々な活用事例とともに紹介しました。また、会場内には、昭和55年発売の「リソグラフFX7200・AP7200」を展示するなどリソグラフの原点を振り返るコーナーも設けられました。各会場とも多くのお客様に来場いただき盛況でした。

今後とも、当社はお客様に最適なプリントソリューションを提案してまいります。

ハイチ・チリ兩大地震被害への災害救援金寄付を実施

当社は、平成22年1月の中米・ハイチ大地震と2月のチリ大地震の被災者救済活動を支援するため、総額200万

円の救援金を日本赤十字社を通じて寄付いたしました。

経営の実績－当期の概況

当社グループは、印刷機器関連事業における新規顧客の獲得による収益力の改善を推し進めました。重点課題として、「高付加価値商品の販売による利益拡大」「生産効率向上と購買力強化による原価低減」「市場が求める高付加価値商品の開発企画促進」「重点課題への経費の集中的投下、他項目は徹底削減」の4項目を掲げ、高速カラープリンター及びデジタル印刷機の販売に注力してまいりました。

「高付加価値商品の販売による利益拡大」については、平成21年2月に発売した高速カラープリンター「ORPHIS Xシリーズ」の拡販が本格化し、また海外向けには新ブランド「ComColor (コムカラー) シリーズ」として同年7月から発売を開始しました。デジタル印刷機では業界初のA3サイズの自動両面印刷を可能にした『RISOGRAPH MD6650W』を国内で発売し拡販に努めました。

「生産効率向上と購買力強化による原価低減」については、デジタル印刷機の単色機の生産を全面的に中国に移管したことや高速カラープリンターの新製品投入の効果などにより原価低減を図ることができました。

「市場が求める高付加価値商品の開発企画促進」では、顧客の多様なニーズに的確に対応するため開発体制と商品企画プロセスを見直しました。

「重点課題への経費の集中的投下、他項目は徹底削減」は、海外子会社の業績改善、新製品開発等の重点施策に経費を投下した一方、グループ全体で経費の削減を行いました。

当期の売上高は円高の影響を受け、また孔版事業の減収もあり784億6千9百万円(前期比6.3%

減)となりました。利益面では、売上原価の低減や販売費及び一般管理費の削減に取り組んだ結果、営業利益は16億6千9百万円(前期は9億1千3百万円の営業損失)、経常利益は21億1千3百万円(前期は6億9千5百万円の経常損失)となり2期ぶりに営業利益、経常利益を計上しました。しかしながら、厚生年金基金脱退に伴う脱退時特別掛金を特別損失に計上したことと繰延税金資産を取り崩したことなどにより、当期純損失は59億3千7百万円(前期は6億4千1百万円の当期純損失)となりました。

次期の見通し

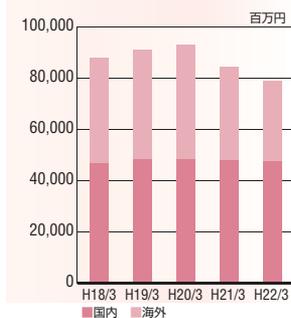
次期の見通しにつきましては、世界経済は、景気低迷からの緩やかな回復が続く一方、欧州の一部の国の財政悪化や長引く雇用不安、景気対策効果の息切れへの懸念が強まるなど、先行きは依然不透明です。

このような事業環境の中で当社グループは、新規顧客の獲得による健全な成長を目指し、安定した利益体質の構築に取り組んでまいります。しかしながら、孔版事業において売上の減少が続いていることと次期の為替レートを当期より円高に想定していることから、通期業績見通しは、売上高771億9千万円、営業利益14億1千万円、経常利益16億2千万円、当期純利益15億7千万円となる見込みです。

なお、通期業績見通しにおける為替レートは、米ドル89円、ユーロ122円を前提としています。

業績ハイライト(連結)

売上高



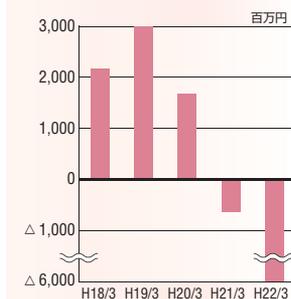
営業利益・損失



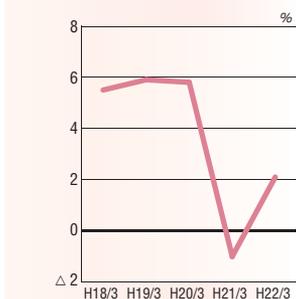
経常利益・損失



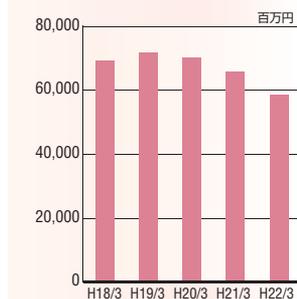
当期純利益・損失



売上高営業利益率



純資産



		平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
売上高	(百万円)	87,601	90,863	92,621	83,774	78,469
国内	(百万円)	46,431	48,013	48,247	47,797	47,562
海外	(百万円)	41,170	42,849	44,373	35,976	30,907
営業利益・損失	(百万円)	4,812	5,379	5,397	△ 913	1,669
経常利益・損失	(百万円)	4,552	5,139	4,709	△ 695	2,113
当期純利益・損失	(百万円)	2,154	2,977	1,657	△ 641	△ 5,937
売上高営業利益率	(%)	5.5	5.9	5.8	△ 1.1	2.1
純資産	(百万円)	68,978	71,354	69,796	65,484	58,275

貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成21年3月31日	平成22年3月31日
流動資産	54,797	49,571
現金及び預金	20,583	13,656
受取手形及び売掛金	13,900	14,221
有価証券	3,281	4,969
たな卸資産	14,029	13,271
その他	3,302	3,904
貸倒引当金	△ 298	△ 451
固定資産	42,647	38,863
有形固定資産	32,492	30,469
建物及び構築物	7,344	6,754
機械装置及び運搬具	1,299	1,169
土地	18,053	17,139
その他	5,795	5,406
無形固定資産	2,307	2,296
ソフトウェア	1,971	1,749
その他	336	547
投資その他の資産	7,846	6,097
投資有価証券	1,718	1,767
その他	6,373	4,493
貸倒引当金	△ 245	△ 163
資産合計	97,444	88,434

(注) 当期の有形固定資産の減価償却累計額 41,639 百万円

POINT 1

現金及び預金

厚生年金基金脱退拠出金の支払により減少しました。

POINT 2

投資その他の資産 その他

長期の繰延税金資産21億9千3百万円を取り崩しました。

(負債の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成21年3月31日	平成22年3月31日
流動負債	26,972	25,005
支払手形及び買掛金	14,311	13,055
短期借入金	5,368	4,832
一年内返済予定の長期借入金	9	5
その他	7,283	7,111
固定負債	4,988	5,153
長期借入金	83	68
退職給付引当金	3,278	3,524
その他	1,626	1,560
負債合計	31,960	30,159

(純資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成21年3月31日	平成22年3月31日
株主資本	66,325	59,616
資本金	14,114	14,114
資本剰余金	14,779	14,779
利益剰余金	38,816	32,108
自己株式	△ 1,386	△ 1,386
評価・換算差額等	△ 1,020	△ 1,340
その他有価証券評価差額金	304	263
為替換算調整勘定	△ 1,324	△ 1,604
少数株主持分	179	—
純資産合計	65,484	58,275
負債純資産合計	97,444	88,434

POINT 3

利益剰余金

当期純損失と剰余金配当により減少しました。

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前期	当期
	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
売上高	83,774	78,469
売上原価	43,885	40,053
売上総利益	39,888	38,416
販売費及び一般管理費	40,802	36,746
営業利益・損失	△ 913	1,669
営業外収益	1,105	1,073
営業外費用	887	629
経常利益・損失	△ 695	2,113
特別利益	1,820	311
特別損失	421	6,384
税金等調整前当期純利益・損失	704	△ 3,960
法人税等	1,318	1,976
少数株主利益	26	—
当期純利益・損失	△ 641	△ 5,937

POINT 4

売上高・営業利益

前期比53億4千万円の減収となりましたが、売上原価の低減や販売管理費の削減に取り組んだ結果25億8千2百万円の増益となりました。「売上高」の為替影響は25億3千2百万円のマイナスとなりました。

POINT 5

特別損失

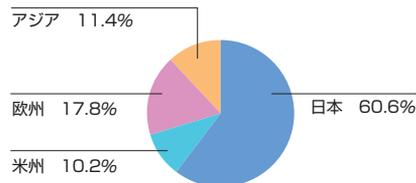
厚生年金基金脱退拠出金58億3千5百万円を計上しました。
事業構造改善費用4億2百万円を計上しました。

■ キャッシュ・フロー計算書

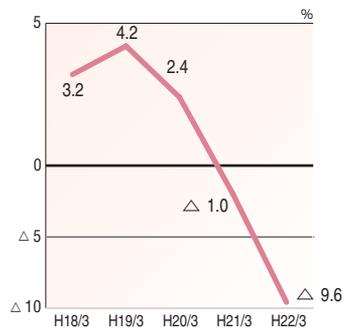
(単位：百万円)

科 目	前期	当期
	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,084	△ 1,969
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,174	△ 1,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,733	△ 1,250
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 707	△ 217
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,181	△ 5,336
現金及び現金同等物の期首残高	30,427	23,246
現金及び現金同等物の期末残高	23,246	17,910

地域別売上高比率



自己資本当期純利益率



国内

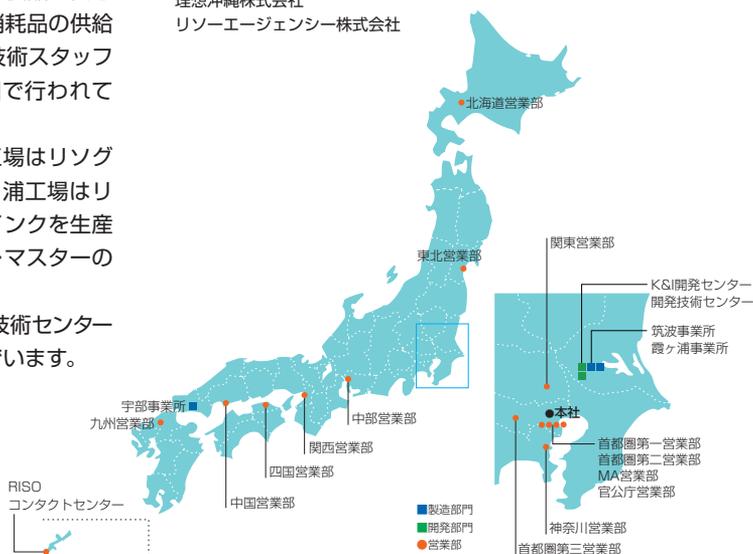
当社の販売ネットワークは14営業部47支店及び販売子会社を中心に構成されています。また、当社製品を安心してご利用いただくために、技術サポートや消耗品の供給体制も全国規模で展開しております。営業・技術スタッフの育成は、リソー教育センターを中心に全国で行われています。

国内の製造拠点は3カ所あります。筑波工場はリソグラフィのハードウェアを生産しています。霞ヶ浦工場はリソグラフィのインク・マスターとオルフィスのインクを生産しています。宇部工場はリソグラフィのインク・マスターのうち量産品種の生産を受け持っています。

当社の開発部門はK&I開発センターと開発技術センターがあり、次代のRISO製品の開発に取り組んでいます。

◆国内の主な子会社

株式会社理想ベック
理想沖繩株式会社
リソーエージェンシー株式会社



本社



K&I開発センター



開発技術センター



RISOコンタクトセンター



霞ヶ浦事業所



筑波事業所



宇部事業所

海外

当社は17の海外子会社を中心に、オフィス、リソグラフなどの販売や、技術サポートや消耗品の供給を行っています。また、中国・広東省の珠海工場では、リソグラフハードウェアの生産を行っています。RISOグループ3,000名以上のスタッフが、さまざまな国の人たちとのコミュニケーションを大切に、多くのお客様をサポートしています。



●海外の主な子会社

RISO, INC.
 RISO CANADA, INC.
 RISO DE MEXICO, S.A. de C.V.
 RISO LATIN AMERICA, INC.
 RISO (U.K.) LTD.
 RISO (Deutschland) GmbH
 RISO FRANCE S.A.
 RISO IBERICA, S.A.
 RISOGRAPH ITALIA, S.p.A.
 RISO AFRICA (PTY) LTD.
 RISO HONG KONG LTD.
 RISO (Thailand) LTD.
 理想 (上海) 國際貿易有限公司
 珠海理想科学工業有限公司
 RISO KOREA LTD.
 理想工業 (香港) 有限公司
 RISO INDIA PRIVATE LIMITED



RISO, INC.
(アメリカ・ボストン)



RISO (Deutschland) GmbH
(ドイツ・ハンブルグ)



RISO (Thailand) LTD.
(タイ・バンコク)



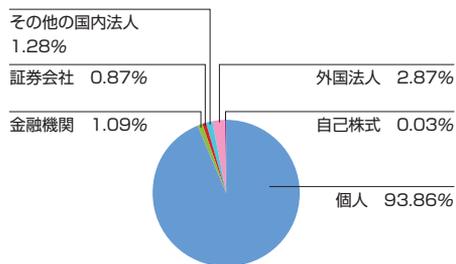
RISO FRANCE S.A.
(フランス・リヨン)



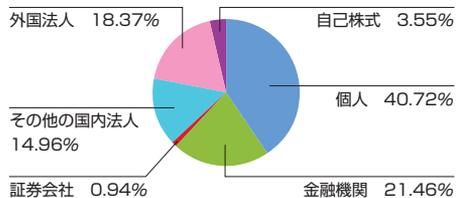
珠海理想科学工業有限公司
 珠海工場 (中国・広東省)

■ 発行可能株式総数	67,840,000株 (前期末比 増減なし)
■ 発行済株式の総数	26,643,166株 (前期末比 増減なし)
■ 株主数	3,583名 (前期末比177名増加)

■ 株主数比率



■ 株式数比率



■ 大株主一覧 (上位10人)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社理想社	2,470	9.27
財団法人理想教育財団	1,330	4.99
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	1,262	4.73
羽山 昇	1,155	4.33
理想科学工業従業員持株会	953	3.58
理想科学工業株式会社	947	3.55
羽山 明	864	3.24
ザシルチェスターインターナショナルインベスターズ インターナショナルバリューエクイティートラスト	826	3.10
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) リユーエスタックスエグゼクティブベンジションファンズ	788	2.95
みずほ信託退職給付信託東京都市銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	783	2.94

- (注) 1. みずほ信託退職給付信託東京都市銀行口再信託受託者資産管理サービス信託の持株数783千株は、株式会社東京都市銀行が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものです。
2. シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッドから、平成21年7月17日付で大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付を受けましたが、当社として当期末日現在における実質所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
シルチェスターインターナショナルインベスターズリミテッド	2,938

3. アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社から、平成22年2月18日付で大量保有報告書の写しの送付を受けましたが、当社として当期末日現在における実質所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社	1,072

- 商号 理想科学工業株式会社
- 本社 〒108-8385
東京都港区芝五丁目34番7号
- 創業 昭和21年(1946年)9月2日
- 会社設立 昭和30年(1955年)1月25日
- 資本金 14,114,985,384円
(平成22年3月31日現在)
- 従業員数 1,709名(グループ全体 3,140名)
(平成22年3月31日現在)
- 連結子会社 24社(国内4社 海外20社)
(平成22年3月31日現在)
- 役員

代表取締役社長	羽山 明
常務取締役	高橋 靖宏
常務取締役	国谷多可史
取締役	阿部 和男
取締役	五十嵐秀隆
取締役	遠藤喜一郎
取締役	藤岡 秀則
取締役	石橋 英悟
取締役	岡田 良隆
取締役	高橋 康信
常勤監査役	谷口 隆
常勤監査役	山本 邦明
監査役	鈴木 龍夫*
監査役	飯塚 良成*

(平成22年6月24日現在)

(注) * 印は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

理想科学に関する様々な情報は ホームページでご覧になれます。

当社ホームページは、製品・サービスや採用のほか、会社情報や環境への取り組みなど多くの情報を発信しています。財務・IR情報コーナーの「株主・投資家の皆様へ」では、関連するニュースやデータをはじめ、決算短信や有価証券報告書、内部統制、コーポレートガバナンス、株式手続きなど様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



ホームページ
<http://www.riso.co.jp/>

また、株主様の個人情報の利用目的を「プライバシー」のページ(<http://www.riso.co.jp/home/privacy.html>)に掲載しています。今回、利用目的をより明確化し、株主様にご理解頂きやすい内容にいたしましたのでご確認ください。

■ 株主様の個人情報の利用目的 ■

- ① 会社法に基づく権利の行使及び義務の履行のため
- ② 株主様としての地位に関し、当社から各種便宜を供与するため
- ③ 株主様と当社の関係の中でも、社団の構成員と社団という観点から双方の関係を円滑にするための各種の方策を実施するため
- ④ 各種法令に基づく所定の基準による株主様のデータを作成する等、株主様管理のため

◆ 今後の見通しに関する注意事項

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社 の全国各支店ならびに日本証券代行株 式会社の本店及び全国各支店で行って おります。
公告掲載URL	http://www.riso.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告が出来な い場合は、日本経済新聞に掲載します。
理想科学株主様窓口	理想科学工業株式会社 総務部 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル 電話 03-5441-6611

■ 株主インフォメーション

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため当社が開設した特別口座にご所有の株式が記録された株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■ 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

インターネットで当社に関する情報がご覧いただけます。

ホームページアドレス

<http://www.riso.co.jp/>



本報告書は、環境にやさしい大豆インキと、FSC認証紙を使用しております。

理想科学工業株式会社

本社 / 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

証券コード 6413